

4. 財政状態

< 貸借対照表の状況 >

| | 中間期 | 前年度末比 |
|-------|-----------|------------|
| 総資産 | 37,404 億円 | ▲ 4,848 億円 |
| 有利子負債 | 14,766 億円 | ▲ 2,871 億円 |
| 株主資本 | 6,498 億円 | ▲ 525 億円 |

当中間期末の総資産残高は、フラッシュメモリ事業とリース事業会社の持分法への移行による影響に加え、保有株式の売却をはじめとする資産効率化の推進により、前年度末から4,848億円減少し、3兆7,404億円となりました。

このうち流動資産の残高は、前年度末から2,716億円減少し、1兆7,999億円となりました。前年度末に集中した売上の回収により売掛債権が1,709億円減少した一方で、棚卸資産が下期以降の売上増への対応により233億円増加しました。また、その他の流動資産では、リース事業会社の持分法移行によりリース債権が減少し、前年度末から795億円減りました。

固定資産の残高は、前年度末から2,131億円減少し、1兆9,405億円となりました。フラッシュメモリ事業再編により有形固定資産が前年度末から1,346億円減少したほか、投資その他の資産がリース債権や保有株式の減少により653億円減りました。

負債残高は、前年度末から3,863億円減少し、2兆9,220億円となりました。このうち、有利子負債は、リース事業会社の持分法移行により約2,200億円減少したほか、社債の償還や借入金の返済を進めたことにより、前年度末から2,871億円減少いたしました。当中間期末の有利子負債残高は1兆4,766億円となり、今年度末の目標としていた残高1兆5,000億円を現時点でクリアしています。有利子負債比率は前年度末から2.2%改善し、39.5%となりました。今後とも継続して保有資産の効率化に努め、有利子負債残高の可能な限りの圧縮に努めてまいります。

株主資本の残高は、純損失の計上により525億円減少し、6,498億円となりました。株主資本の縮小以上に総資産が減少したことにより、株主資本比率は前年度末の16.6%から0.8%上昇し、17.4%となりました。

< キャッシュ・フローの状況 >

| | 中間期 | 前年同期比 |
|---------------|----------|----------|
| 営業キャッシュ・フロー | 374 億円 | 1,184 億円 |
| 投資キャッシュ・フロー | ▲ 303 億円 | ▲ 198 億円 |
| フリー・キャッシュ・フロー | 70 億円 | 986 億円 |

当中間期の営業活動により生み出したキャッシュ・フローは、前年度末の売掛債権の回収が進んだことにより、374億円のプラス（前年同期は809億円のマイナス）となり、前年同期からは税引前損失の縮小などにより1,184億円改善いたしました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資を成長分野に絞り込んだことや、保有株式の売却を進めたことなどにより303億円となりました。

営業キャッシュ・フローの範囲内に投資キャッシュ・フローをおさえたことにより、フリー・キャッシュ・フローは前年同期に比べ986億円改善し、70億円のプラスに転じました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、事業活動により生み出したお金と手元資金の取崩しにより社債の償還や借入金の返済を進め、506億円のマイナスとなりました。

この結果、現金及び現金同等物の残高は456億円減少し、2,366億円となりました。